



大宮小だより

R4年11月21日 No.11

発行 阪井宏行

～自ら学び、心豊かで、しなやかに生きる子どもの育成～

充実した文化祭でした ～みんなよく頑張った！～

児童会の合言葉は『みんなが主役☆心は一つ』、教職員の合言葉は『子どもたち主体の文化祭を目指して』。それぞれが活動のめあてを持って取り組んだ文化祭でした。折に触れて言っていますが、当日の出来も大事ですが、紆余曲折しながらの学級の取組の過程を、我々は大切にしています。なぜならその過程の中に子ども達の成長があるからです。

最後の挨拶でも述べましたが、社会において、自分一人で頑張ることも大切ですが、仲間とともに何かをやり遂げることも大切です。人それぞれ考え方や行動が違いますから、最初から皆が同じ方向を向いて進まないことの方が多いです。だから余計難しいのですが、やり遂げた時の喜びや達成感は大きくなります。そこに学校の大きな意義があります。

どの学級もそれぞれ苦労しながら、ぶつかり合いながら、当日を迎え、大きな達成感と成長がありました。まさに児童と教職員の2つの合言葉が達成された文化祭でした。

作品展示・・・にじの広場に各学年の作品が並びました。どれも力作ぞろいで皆の目を奪いました。



学年発表・・・どの学級も1カ月の練習の成果を出し切りました。みんなよく頑張ったぞ！



芸術鑑賞・・・劇団伊勢による「やまとひめ」を観劇しました。あらすじは、地元の滝原宮の成り立ちの歴史(神話)で、劇団伊勢の脚本家が、大宮小のために書き下ろしてくれたものでした。子ども達の反応はとて良くと、劇団の皆さんから「大宮小の子ども達が素晴らしかった。自分たちが感動してしまった。」という嬉しい言葉をいただきました。

4,5年:お米販売 2,3年:花植えと芋ほり ～地域学習～

「人とホテルの元気な里地づくりプロジェクト」の皆さんと一緒に取り組んでいる地域学習がありました。

4,5年生は1学期から取り組んだ米作り学習の一環として、文化祭でお米の販売を行いました。どんどんお米が売れて実際にお金が貯まっていくので、米作りの学習の中で一番嬉しそうな顔をしていたような気がします。



2,3年生の花植えと芋ほりでは、滝原地内のビオトープ近くの休耕田に菜の花の種をまきました。上手く育ったら春にはすごい景色になるでしょう。サツマイモは予想以上に大きく成長し、一筋縄では掘り出せないものもありました。収穫したサツマイモは給食でも食べさせてもらう予定です。



ビオトープは、役場裏の道を七保峠方面に向かうと、れんげの里手前の右側にあります。少し下がっているので車からは見えません。

